

「帰ってきたい!」を応援します!!

「進学や就職で県外へ出たが、いずれは青森に帰ろう」「青森に移り住みたい」という方へ

移住相談はあおぐら (青森暮らしサポートセンター)へ!

東京・有楽町に移住相談窓口を開設し、しごと、住まい、移住支援、各種イベントなどの情報をそろえ、幅広い相談に対応しています。首都圏在住の本県出身の方など、「青森暮らし」をお考えのお知り合いの方に、ぜひご紹介ください。



(左:長野相談員/右:澤相談員)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター内
◎開設時間 10:00~18:00【月・祝日、夏季休業期間及び年末年始はお休みです。相談会等で不在にする場合もあります。】
TEL. 03-6273-4820(直通) / 090-6342-6194(移住・交流相談員) FAX. 03-6273-4821
E-mail. aomori@furusatokaiki.net

相談の7割が現役世代、Uターンも年々増加

最近の移住相談の傾向について、青森暮らしサポートセンターの澤相談員にお話を聞きました。

青森暮らしサポートセンターがある「ふるさと回帰支援センター」には、39道府県1政令市が専属相談員を配置しているため、毎日多くの方が移住相談にいらっやいます。相談件数は年々増えており、「ふるさと回帰支援センター」全体では開設当初の2008年と比較して、2016年は10倍以上と増えています。利用者の傾向も変化していて、2008年は60歳以上の利用者が全体の約4割を占めていましたが、現在では20~40歳代の方が7割近くを占めています。また、ふるさとに帰るUターンの相談が年々多くなっている印象です。

ふるさと回帰支援センター
年代別利用者

相談者のUターン分類の推移

年	Uターン	Uターン以外
2013年	4.1%	20.8%
2016年	3.3%	20.8%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません
出典: データで見る移住希望者の動向 2016 (NPO 法人ふるさと回帰支援センター作成)より

Uターン相談 お待ちしております!

あおもり移住・交流推進協議会(事務局: 県地域活力振興課)では、青森県への移住をお考えの方へ向けた移住セミナーを、市町村と連携して開催しています。

移住セミナーのほかにも、市町村の職員が青森暮らしサポートセンターにて出張相談を行う「市町村相談デスク」も開催予定です。詳細なスケジュール、参加市町村等は、「あおもり暮らし」のホームページにて随時更新していきますので、首都圏在住の本県出身の方など、青森への移住をお考えの方にぜひご紹介ください。

【青森県合同移住フェア】

■日時: 8月26日(土)13:00~16:30
■会場: 東京交通会館3階 グリーンルーム

県や14市町村と個別相談できるほか、就職や起業、就農などテーマ別の相談も受け付けます。青森県で新しい暮らしを検討されている方のご来場を、お待ちしております!

移住者交流会に 参加しませんか?

県では、青森県へ移住された皆さんに、地域に馴染み安心して住み続けてもらうため、移住者や地域の方々を対象とした交流会を開催しています。ぜひご参加ください。



【今後の開催スケジュール】

■日時: 8月20日(日)【時間未定】
■会場: 松の湯交流館(黒石市)
※詳細が決まり次第、「あおもり暮らし」ホームページにてお知らせします。

青森県移住・交流ポータルサイト「あおもり暮らし」

県内40市町村の移住支援施策や住まい情報などを掲載しているほか、移住者のメッセージなど「あおもり暮らし」の魅力を発信しています。



詳しくは、あおもり暮らし

■移住パンフレットをダウンロードできます!

県内40市町村の暮らしの情報や移住・定住への支援のほか、県の移住相談窓口や就職情報、住まい情報等を掲載した「あおもり移住・定住ガイドブック」を作成しました。青森暮らしサポートセンターで配布しているほか、「あおもり暮らし」ホームページからもダウンロードできます。



【4~5ページの特集記事に関する問い合わせ先】 地域活力振興課 ☎017-734-9174

8月 人財きらめく、住んでよしの青森県 関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送日時
青森放送	大好き、青森県。	8月20日(日) 17:00~17:15
青森テレビ	みんなの県庁!	8月5日(土) 16:55~17:00
青森朝日放送	メッセージ	8月12日(土) 9:30~9:35
		8月19日(土) 9:30~9:35



魅力的な人たちと青森で働きたい! “人”との出会いがカギ

私は青森市出身で、茨城県の大学・大学院を卒業後、茨城県で高校の教員や、民間学童保育の教室長として働いていました。40歳までには地元に戻りたいと考えていたので、Uターンに向けて情報収集のため、青森県で起業・創業支援を行っているインキュベーション・マネージャーが東京で開催したセミナーに参加するなど、できるだけ青森に関わる人とのつながりをつくるように心がけていました。

そんななか「青森暮らしサポートセンター」から紹介された、東京と青森の交流会「あおぐら」というイベントへ参加。そこで、現在私が働く職場の方をはじめ、多くの方と出会いました。「青森には魅力的な人たちがたくさん暮らしている、自分も一緒に

に何かできたら楽しそう!」と、青森へ帰ったあとの暮らしを具体的にイメージしはじめました。それをきっかけに、県が主催するさまざまな移住イベントに参加。そのたび、青森に暮らす地元の方と出会い、つながりを増やし、平成29年4月、約20年ぶりに青森での暮らしを始めました。

今、一番強く思うのは、「何をやるか」より「何を誰と一緒にやるか」が重要なポイントだと思っています。それに気づかせてくれた移住イベントでした。

住みたくなくなるのは人が楽しく暮らす街

現在、私が担当している仕事は、県内の自治体から委託された、子どもの居場所づくりと、移住に関わる事業です。移住後も地域で孤立しないように、移住者と地域、また移住者同士が

つながるためのイベント「あおもり回帰1000人会議」の開催にも携わっています。

私の場合、Uターンが決まった時、一番不安に思ったのは、雪道の運転でした。そんな不安を、移住者が楽しみながら解消できる「雪国暮らし体験」のようなイベントを今後企画できたらと思っています。せっかく青森で暮らすのですから、カーリング

やカヌー、津軽三味線なども始めてみたいですね。青森で暮らしているとなんか、逆になんか目が行きがちですが、逆に青森にしかないものもたくさんあり、今は、そういうものを見つける喜びも味わっています。人が楽しく過ごしている場所には多くの人が集まってくると思うので、自ら青森暮らしを楽しみながら、メッセージを発信していきたいと思っています。

循環型農業を目指し 夫婦で五戸町に移住



【インタビュー】
山口 平さん 神奈川県出身、平成29年3月、夫婦で五戸町に移住。新規就農を目指し、現在、「はる園圃」で農業研修生として勉強中。
山口 千代さん 平内町出身、「五戸町地域おこし協力隊」として町の活性化に向け活動中。

私は神奈川県、妻は平内町出身で、関東エリアで会社員として働いていた時に出会い結婚。そのころ、私が体のかゆみに悩まされるようになり、食や環境問題、農業に関心を持ち始めました。夫婦で「自然農塾」で学び、農家の手伝いをするうち、安心・安全で自然にも負荷がかからない農業を目指したいと思うようになりました。

妻は、いずれは青森に帰りたいという思いがありました。そこで、青森で新規就農するための情報を収集しようと、東京の有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」で開催された「青森暮らしセミナー」に参加したのが移住のきっかけに。その会場で、神奈川県から五戸町に移住した農園を営む夫婦と

出会い、彼らが取り組む無農薬・無化学肥料での野菜づくりが、私たちが目指すところでもあり、「五戸町は農業に向いている土地。雪が少なく住みやすく移住者も多い」という言葉に心が動かされました。

その後、五戸町に何度か足を運びました。町役場の方は、いつも親身になって、町案内や先輩移住者を何人も紹介してくれて、空き家の持ち主である地元の方もとても親切にしてくれました。

食の豊かさ
住民の温かさに支えられ

現在、私は新規就農を目指し、農業研修生として勉強中、妻は「地域おこし協力隊」として活動しています。五戸町に来て驚いたのは食の豊かさ。私は「丸いも(つくねいも)のおいしきにはまり、妻は商店街のせんべい屋さんなど、この土地の食文化に興味津々。また、私たちの住まいも地元の方々がリフォームを手伝ってくれ、近所のおばあちゃんのごみの出し方を教えてくれる。地域の皆さんが、私たち二人にとっても温かく接してくれました。先輩移住者の「消防団に入る

と地域に溶け込みやすいというアドバイスを受け、早速入団。おかげで、スムーズに地域の方と打ちとけることができました。

「青森暮らしセミナー」など青森県が開催する移住イベントに参加したことが、私たちの移住の決め手。移住を考えている方は、そのような機会に積極的に参加して、人のつながりをつくることをお勧めします。人から人へと輪が広がって、移住先での暮らしを支えてくれると思います。



移住者をサポートする地域の輪が、県内にどんどん広がっています。